

## 第36期富士見市民大学公開講演会

# 子どもの夢の広がる教育とは

平成25年6月1日(土)  
午後2時～  
(市民大学開講式終了後)

講師：武川行男氏  
(富士見市教育委員会委員長)



富士見市民大学の開講式終了後、記念講演が行われました。講師は、武川行男氏です。講演内容は「子どもの夢の広がる教育とは」でした。第一線で活躍された方の語られる内容は、現実に真摯に立ち向かわれた結果の素直な表現内容でした。

聴講者は、子育てが終わった方が多かったようで、子育て中に、このお話を聞いていれば、チョットは・・・という感想がありました。しかし、先生は、親の子育て、祖父母の孫育てについて述べられ、孫育ての重要性もサラリと表現されていましたが、今回の話の力点であったと思いました。



<講演風景>

以下のページは講演会で使われた資料です。なお、富士見市立図書館に「武川行男」著の本が9冊登録されていまして、更に詳しく知りたい方は参考になさってください。

## 「子どもの夢の広がる教育とは」 武川行男

### 1. 子どもの夢は、いま

- ・成長とともに夢がしぼんでいく

### 2. 子どもの夢を阻害するものは

- ・学力 ・体力 ・健康（病気） ・経済力 ・友人関係
- ・もしかすると親と教師も ・ときには教育のしくみも

### 3. 夢を持ち続けるためには、広げるためには

- ・ほめる ・励ます ・道すじをアドバイス ・多様な経験を
- ・長所を見つける ・自尊感情（自己肯定感）を育てる
- ・基礎学力をベースにして個性を伸ばす
- ・学ぶことは楽しいという実感
- ・成長が確認できること

### 4. 祖父母の役割

- ・ちょっと距離をおいて ・楽しい経験を話す

### 5. 教師の力

- ・万全のコンディション（ゆとり） ・快活 ・活力
- ・個に応じた指導の力
- ・ダイナミズム（動きのある力強い学級・学校）

## 修了式の話 「自分のいいところ探し」を

東京都豊島区立大塚台小学校校長 武川行男

1年のしめくくりの日がやってきました。きょうは二つのことをお話しします。

ひとつは、自分のいいところをよく知って自分らしさを出しましょう、ということです。

みなさんは、一人一人が、とてもいいものをたくさんもっています。自分では気がつかないかもしれませんが、いいところが10も20もあるのです。

きょうは、家へ帰ったら、自分の「いいところ探し」をしてみませんか。紙と鉛筆を用意して、いいところを書いてみてください。

「絵を描くのが好き」「友だちにいじわるをしない」「好き嫌いなく何でも食べる」「近所の人にもあいさつをする」というようなことでいいのです。

「絵がへた」「にんじんが嫌い」なんて、ダメなほうを考えてはいけません。家の人にどんなところがいいか聞きながら書くと、20以上あるかもしれません。

たくさん書けたところで、今度はゆっくりとそれを読んでみてください。できたら2回くらい。

すると不思議なことがおこります。顔がにこにこ顔になって、体の中から力が湧いてくるのです。「私って、いい人だったんだ」と思ったり、「ほくは、意外とすごいヤツなんだなあ」と感心したりすると思います。

そうです。自信がついてくるんです。みなさんが自分に自信をもつということはとても大切なことです。これからの生活を明るく楽しくします。将来の希望も大きくふくらんできます。ぜひ、いいところ探しをしてください。思いついたいいところは必ず紙に書いてくださいね。心の中で思っただけでは不思議な力は湧いてきません。

（一）きょう担任の先生からいただく「あゆみ」通知表にもみなさんのいいところ、がんばったと

ころがたくさん書いてあります。それも参考にしてください。

ふたつめの話は、みなさんのやさしさについてです。

みなさんは「たけのこ」（心身障害児学級）の友だちに、いつもとてもやさしくしてくれました。

たけのこの友だちの中には、うまく話ができない子がいますが、それでも話しかけていっしょに遊んでくれました。みなさんと同じようには走れない子もいますが、おにごっこやボール投げに誘ってくれました。

ただ「かわいそう」と思うだけではダメです。いっしょに遊ぶ、いっしょに作る、いっしょに働くというように、何かをいっしょにすることが大切なのです。

もちろん、困っていたら手を貸してあげてもいいのですが、自分でもできることまでやってしまうのはよくないことです。

ユニセフ募金も、いままでになくたくさんのお金が集まり、ユニセフ協会に送ることができました。これも、みなさんのあたたかい心の表れでした。

そしてもうひとつ。私の話もよく聞いてくれました。300人のみなさんの顔がみんなこちらを向いていて、私もとてもうれしくて、いっそう心を込めて話すことができました。

話をしっかり聞く、これもやさしさの表れです。

あしたから春休みです。きっといい春休みになると思います。





### 4 自尊感情と自信を育む

※自己肯定感

援助交際や売春をする少女（援助交際も売春ではあるが）ナンパに明け暮れる少年、そして暴走族に加わったりする若者たちの多くに自尊感情が育っていないといわれている。

自尊感情というのは、自分を大切に思う気持ちである。自分を大切に思う人は、自分の特長を知っていて、プライドや自信を持って生きている。人のために役立っていることにも気づいている。

しかし、そういう若者は滅多にいないものではない。大人でも自信を持って生きている人はそう多くはない。それを子どもたちや若者たちに求めるのは無理ではないか。そのとおりである。

だから、ここでは子どもたちが自分の良い面を自覚し、家族や教師からあたたかく見守られている存在だけを知ることでもいいと思っている。

援助交際をする少女たちは、ほとんど、自分には取り柄がないと考え、親からも教師からも期待されていないと思っている。勉強が嫌い、仕事も嫌い、特技もない。ほめられないだけでなく叱られることさえない。もうどうなっても構わない。そんなふうを考えているようだ。

そういう彼女を知る周囲の人は、いや決してそんなことはない、と直ちに否定し、こんないい所、あんなすばらしい面があるじゃないかとあわてて励ます。時、すでに遅しである。多くの場合、彼女たちは、以前からこんなこともできないのか、みつともない、だらしがいい、やる気があるのかと多分言い続けられてきたに違いない。また頑張った時や人のために働いたときなども、誰もほめてくれなかったという経験をいくつも重ねてきているに相違ない。少なくとも本人はそう感じているに違いない。

これではあわててほめても自尊感情は育たない。そんな時やさしい言葉をかけてくれる人がいれば直ちに気持ちはそちらに傾いていってしまう。その人がいい人ならば何の問題もないし、むしろありがたいことなのだが、そうでないことの方が多いのが今の世の中である。

非行少年たちも同様である。たいていは、彼ら一人ひとり気弱い少年たちであるがグループや集団になると突如牙を剥く。

自尊感情は、ただほめていけば育つというものではない。個性的に育てれば自然に芽生えるというものでもない。いい人間関係の中で成就体験、成功体験を積み重ねることが大きな力になるのだ。



子どもに語る五分間「性教育」(武川行博、二〇〇一年)

(いんげん)

子は親の鏡

「かわいそうな子だ」と言っていると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引つ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、子どもは、明るい子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つけてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、

子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

法

子どもが育つ魔法の言葉

ロシー・ロー・ノルト著

(PTP研究所)



### あっぱれな教え子

鹿児島県鹿屋市の人から手紙が届いた。差出人の名前に心当たりがない。気になりながらも封を切った。「小学6年の時、担任していただいた○○です」とある。驚いてもう一度封筒を見る。「あっ、あの子だ」。明るくおちめめなかわいい少年の顔が目につく



### 男のひととき

✉ m:htok@asahi.com

んだ。読み進めると、かの少年は今49歳。鹿児島で診療所を開設し、奥さんとともに医師として働いているという。インターネットで探索して見ると、3年ほど前に「男のひととき」に掲載された私の文章に出合っただけ。懐かしさのあまりパンをとったのだという。何と

いう偶然。こんな再会があるだろうか、と胸が高鳴った。

当時の卒業アルバムを探し出し、彼がつづいた「将来の夢」を眺んで、二度びっくり。「ほんとは医者になりたい」と思っています。日本で医者がいなくなると行って人々を救って行くの

が夢です」とあるのはなにか。

彼は現在、脳神経外科を専門とし、鹿児島へのき地で救急医療をはじめ幅広い医療に日夜奮闘している。

見事に夢を実現しているのだ。あっぱれ、というほかなら。懐かしさでうれしさは瞬時に尊敬に変わった。

埼玉県富士見市  
武川 行男  
無職 74歳



今、童話作りに励んでいる。物語は私が作り、隣の家に住む小学3年の孫息子が挿絵を描いていく共同作業を進めている。

孫は絵を描くのが好きで、3歳の頃から「おじいちゃんこれ描いて」と言いつつ絵本や図鑑を持ってきて、ほものや鳥、魚などを無理やり描かされた。ところが、本を見ながら「おじいちゃん描けはさういふに描けはさういふで、苦めなかつた。そのうち孫は自分で描へようになり、今では将来は画家になりたいと夢を言っている。

その、共作の第一号が完成した。題名は「空をとんだナメクシ」。わが家の台所に入ってきたナメクシを、トングですまんて遠くへ放の投げた出来事、ナメクシを主人公に擬人化し、ちよとユーモラスに描いてみた。

### 武川 行男

### 孫との共作

(軍士見市、75歳)



孫は面白がつて10枚ほどの挿絵を描いた。絵の方もユーモアがあつて、私たち2人は、その出来栄に満足しているが、両方の家族は気持ちが悪くつて、評判はあまり良くない。

そこで、第2作はちよときれいな話にした。孫はどんなイメージを抱いて、どんな絵を描くのだろうか。友だちと外で遊ぶことが多くなってきたので、完成するのはちよと先になりそうだ。

【投稿規定】生活実感のあるもの。3000字以内。住所、職業、年齢を明記。他紙(誌)への二重投稿不可。送の先〒330-1188 埼玉県新聞社編集局「つれづれ」メール tsuzure@satama-np.co.jp

埼玉新聞

2013 (H.25) 3/22

朝日新聞

2012 (H.24)

8/12